

## 『モノづくり』でつながっていく

鈴木碧（電気電子システム工学科4年）

鈴木菜緒（化学・バイオ工学科3年）

私たちは、高専でよく耳にする『モノづくり』という言葉に、とても漠然とした大きなイメージを持っていて難しく考えていました。しかし、この言葉は高専や大学で学ぶ専門的な知識や技術を活用して作るもの以外に、芸術的な創作物や、コミュニケーションを通して人間関係を形成することなど、あらゆるものが含まれているのではないかと、今回のロボコンへの参加を通じて強く感じました。人それぞれ、好きなものもやりたいことも違うから、個人に蓄えられてる知識は歳を取るほどかけはなれたものになっていくけれど、大きな『モノづくり』というものでみんなとつながっているような感覚が芽生えてきました。

それは同時に、「大きな『モノづくり』という輪は自分がいなくても回っていくんだ」という気づきでもありました。だからこそ、自分が「知りたい」と思ったことを学んでいくことに意味があるのだと思います。そして、この時の「知りたい」は「苦手だけど学んでみたい」、「それに取り組んでいる時の自分が好き」など、人によって異なる理由が存在していて良いのだと思っています。

大きな枠組みとして捉えるなら、自分の人生を組み上げていくという行為も『モノづくり』だと思います。毎日、たくさんの選択をして積み重ねていくけれど、時々その手を止めてしまいたくなる時がある。2020年は悲しい出来事に触れることが多く、今まで一人ひとりが積み上げてきたことが大きく揺らいだ年でした。そのような年でも、真剣にロボットと向き合う人たちがいること。その姿はロボットの作り手が想像するよりも大勢の人々へ、「明日を自らの手で創造していく勇気」を届けてくれたのではないのでしょうか。本当にこの大会を通して、『モノづくり』に真剣に取り組む人々に出会えて幸せでした。